

＜提案シートの内容＞
内容ごとに整理したものに、図書館からの検討結果を追加

アイデア	方向性	回答
1 図書館の施設と機能の充実・魅力づくりとWeb 利用の充実		
(1)館内奥の調べものコーナー以外に、入口貸出カウンターの辺りに「案内&調べものコーナー」をつくる。	H28から実施	既存サービスの周知をあらためて実施する。
(2)新しい本があると良いな！特に医療系などは新しい情報を。	実施	リクエストサービスの活用等により、利用者ニーズの把握及び蔵書への反映に努める。
(3)パン、お菓子など買える売店やATM(銀行)がほしい！	保留	パン等は喫茶コーナーで既に販売している。ATM(銀行)は市役所内に設置しているため、困難。
(4)ネット予約の充実(館内のみでなく、できないかな)電話連絡など。	実施済	既存サービスの周知を積極的に実施する。
(5)ホームページを見やすくする。(動作を軽くする、年齢別のオススメ本を紹介する→Web予約利用者に対して)	検討	利用者ニーズの把握に努めるとともに、必要なメニューの検討を行う。
2 若い世代の利用が増えるような工夫をする		
(1)若者の利用を増やすため、Wi-Fiを充実。	検討	Wi-Fiについては、平成25年度に設置してるが、速度が遅いという声があるので、改善策を検討する。
(2)中学生、高校生の参加を進める。高校生、高校に市民図書館をPRしてバスが図書館まで乗せてくれば良い。	H28に実施 保留	市内高校と連携し、PRを検討する。
(3)学校図書館の有効利用。(全校に司書を配置し、子どもたちに利用方法を学ぶ機会をつくってほしい。貸出も可能に。巡回文庫の活用。校外学習	H27試行中	学校図書館の活用については、花川小学校で市民図書館の資料の児童・教員への貸出等を試行しているので、その結果をふまえて拡大を検討する。
3. 利用者と職員(司書)とのコミュニケーションをふやす		
(1)市民と図書館職員とのコミュニケーションをもっと親密に！！(司書による講座)	検討	利用者が声かけしやすい雰囲気を作ることから始める。
(2)スタッフさんの写真付紹介パネルを掲示しては？どのような方が働いているか、わかると親近感が湧くのでは？	検討	同上
(3)司書の方がどんなことができるのか発信する。	H28に実施	図書館の使い方や司書が提供するレファレンスサービス等をあらためて周知
(4)利用者と職員さんのキョリを縮める。子どもたちへの声かけ、楽しい雰囲気づくり(ボランティアさん含む)。	H27から実施	利用者への積極的な声かけ等に努めるよう、心がける。
(5)館長さんのオススメ本を紹介する時間(週1回くらい、大人向け・子ども向け)。	保留	—
(6)職員さんの名札をひらがなで親しみやすく。	H27から実施	表面を通常の名札、裏面を平仮名の名札にする。
4. 利用者同士のコミュニケーションの場をつくる		
(1)コミュニケーションの場として図書館を紹介する。(作品について、例えば感想を話し合うなど、コミュニケーションの場が小さくあると良い。)	検討	図書館まつり等が活用できないか、検討する。 ※ある図書館で「自分が借りた本に次の方へのオススメ文(ポップ的なもの)を書いて返却する」取り組みをしている。
(2)他の年代の方と交流できるような機会をつくる。		
5. 選書、特集、ポップなどで、本を紹介する		
(1)特集コーナーを増やしてほしい！ (条例ができた手話や市内でのイベント・企画に関する本)	H28から実施	H28から特集コーナースペースを増やす計画があるので、そこでできることを検討します。

(2) 図書館イベントと連携した本を選び、参加者に借りてもらう。	実施済	特集コーナーの設置の継続に加え、出張貸出を始めたので、館内外のイベントで活用する。
(3) 年代別ランキングなど、わかりやすい特集も大切だが、マニアックな特集(専門家による選書、ツアーなど)も大切。	保留	—
(4) 本を手に取りたくなるようなポップ作り、インターネットの検索とポップを連携させる。	検討	(1)の新しい特集コーナーとあわせて検討する。
6. 利用者の興味をひく様々なイベントの開催		
(1) イベントによる集客。(図書館講座や図書館に興味のない人も来たいくなるようなイベントなども…)	検討	イベントは図書館に足を運んでもらうきっかけになるので、計画的に実施し、図書館そのものについて効果的なPRをする。
(2) 対象をしばった(学生向けとか、高齢者向けとか)イベントを通じて、様々な図書館の利用法をPRする。	H28から実施	対象を意識したPR方法を検討する。
(3) 長めのイベントをする。(図書館まつりより長期間)	保留	—
(4) 子どもだけでなく、大人向けのイベントを！ 趣味や音楽の発表の場など。	検討	作品発表やコンサート等、社会教育課との連携による実施を検討する。
(5) 月1回の名画劇場を企画して、巡回バスを運行する。その時に借りた本を返却できるようにバスは月2回がベスト！	保留	—
7. 図書館を多目的な利用・活動の場として活用する		
(1) 本を借りる以外の利用法をPRする。	H28から実施	研修室やグループ活動室など、図書館が多様な利用ができることをPRする。
(2) 楽器レンタル(楽譜も)。本は読まないけれど楽器には興味がある、〇〇という楽器を使って演奏したいという人のためのシステム。(北欧では—)	保留	—
(3) 市民図書館なので市民の催し物をPRする。例えば布の絵本1位を図書館でお祝いする！	検討	作品発表やコンサート等は、社会教育課や子ども未来館との連携による実施を含めて検討する。
(4) 作品の発表場所として利用してもらおうと生きがいがづくりの一つとなる。		
(5) 本を借りるだけでなく、コンサートやイベントの舞台として利用してもらおう。		
8. 図書館の機能、特長、イベント、入荷図書などのPRを工夫する		
(1) twitter やFacebook などのSNS を活用して新刊の入荷状況やおススメの本の情報を毎日こまめに発信していければ良いのでは？	検討	SNSの活用を含め、図書館のサービスや取り組みのPR方法について検討する。
(2) 広報活動をもっと盛んにする(インターネット、特にフェイスブックやtwitterなどのSNS)。本の紹介や特徴の紹介、図書館の施設紹介。	H28から実施	図書館の使い方やサービスをあらためてPRする。
(3) 図書館をよく知らない人が多いので、PRする。(字の大きな本があるなど) 老人クラブにPR。		
(4) 今やっている特集、イベントなどを広報などで大々的にアピールする。野菜・花など石狩産にこだわって販売していることも知らない人が多いと思		
(5) 回覧板など、目に付くものにオススメ本の紹介をする。	保留	図書館だよりの発行・周知方法について検討する。
9. 図書館のことを知ってもらうために他の施設や団体との連携でPRをする		
(1) パスファインダー(ブックリスト)を市民の目に付くところに！(市役所に「相談」「年金」「税金」。りんくるに「子育て」「医療」「介護」。学校に読み聞かせ「絵本」「児童書」など)	保留	—
(2) 「まちあかり」など、図書館以外に出している情報紙で、市民図書館の本が紹介されていると、来館のきっかけになるので、他でも紹介される場が	検討	まちあかりの図書館PRスペースが無くなったので、他の媒体による本紹介について検討する。

(3)巡回バスの運行で、利便性を向上させる	保留	—
(4)巡回バスの運用(もしくは図書館バスを月に1回程度走らせる)		
(5)循環バスなどがあると来やすい！！		
(6)市内を循環バスで送迎(子ども、高齢者など)。(やっぱり一番は足)		
(7)学生さんや主婦、高齢者など多くの人利用できる無料バス、図書館の前まで！		
10. 図書館に来館できない方のためにサービスを拡充する		
(1)(体が不自由な人のための)配送システム。→来館できない人が利用できる。→配送料は有料。	検討	まずは、すでに実施している宅配サービスの周知をあらためて行う。
(2)ボランティアによる来館できない方への宅配サービス。		